

中学生の税についての作文

南九州地区納税貯蓄組合連合会優秀賞

「子どもでも、「税金」が
かかりますか？」

荒尾第四中学校一年 牧 鈴奈



税金には、所得税、源泉所得税、相続税、贈与税、消費税、印紙税があります。

私は、この中の「消費税」について、考えました。なぜなら、一番身近な私生活で、買い物などをしたときに無意識に消費税を支払っていたからです。

子どもは、働いていないのに税金を払わないといけないのでしょうか。買い物などをすると、消費税を負担することになるし、銀行に預金したり郵便局に貯金をしていけば、その他に、子どもでも働いている人（芸能人など）や、親が亡くなったたりして財産をもらう人には税金がかかる場合もあります。

税金は、どうして必要なのでしょう。世の中には、ひとりだけではできないことがたくさんあります。例

えば、大きな川の対岸においしい果物がたくさんあるとします。人々は是非それを食べてみたいと思います。しかし泳ぎの得意な人は食べることができて、とてもみんなの食べる分までは持って帰れません。こんな時、みんなで力を合わせて橋をかけるとしたらどうでしょう。工事をする人、材料をそろえる人、その間に食事を作る人、農作物をつくる人などみんなの力が必要になってきます。このように、みんなが幸せで豊かな生活をするには、協力し合うこと、つまり、分担することが必要になってきます。

国や地方公共団体は、わたしたちの生活に欠かすことのできない仕事をしていきます。その仕事をするために必要な費用を、わたしたちは、「税金」という形で負担しているのです。だから、税金は社会を維持するため

の、すなわち会費であると思います。もし、税金がないとどうなるのでしょうか。道路や公園などの公共施設を造ったり、教育・福祉・警察・消防などの公共サービスを行っていません。これらの仕事をするためには、たくさんのお金が必要になります。このために集めるお金が「税金」なのです。

もしも、税金がなかったらどうなるのでしょうか。おそらく暮らしにくい世の中になってしまっているのではないのでしょうか。

最近、曾祖母が介護の関係で洋式のトイレを設置することになりました。すごく高い品物でしたが、国からかなりの金額が戻ってくると聞き、びつくりしました。こういう所で税金が使われているのかと実感しました。

私は、子どもでも税金はたくさん使われていると分かったし、思いましました。最初は、子どもには、税金はかからないかと思っていました。でも、子どもでも、多くの税金が支払われ、使われていたんだと思いました。それに、私たちが仕事をするためにとても大切な費用、それが、税金なんだと初めて知ることができました。もし、税金がなかったら、確かに、暮らしにくくなると思います。だから、私は、「税金」がとっても大切なお金で、子どもにも税金が使われていると思います。

題字を書きました



中央小学校 4年 大窪 安結美 さん

幼稚園の年長から、習字とピアノを習っています。友だちとは、ケイドクや鬼ごっこをしてあそびます。学校の勉強では音楽がすきで、歌うのが楽しいです。今年算数の勉強をがんばります。しょうらいは薬剤師になりたいです。

＊おもな内容 main contents

新年のごあいさつ	2
民生・児童委員一斉改選が行われました	8
病院の在り方検討委員会の点検・報告書	14

声の広報 [文字による情報入手が困難な障がい者のための音声訳(録音版)広報誌] (福祉課 ☎63-1406)

荒尾市ホームページ (<http://www.city.arao.lg.jp>)

携帯電話専用サイト 二次元コード
<http://www.city.arao.lg.jp/defaultM.aspx>

※通信費は閲覧者の負担です



市役所からの 地球温暖化防止の取り組み

～第2期計画期間 実績報告～

荒尾市では、地球温暖化対策実行計画（第1期：平成12～16年度、第2期：平成17～21年度）を策定し、市役所、小・中学校、市民病院、荒尾競馬などで地球温暖化対策に取り組んでいます。

今年度で10年目の取り組みとなり、大きな成果が表れています。

第2期計画期間の実績

	目標 (A)	実績値 (B)	削減率 (B-A) / A
温室効果ガス排出量	6,349 トン以下	5,515 トン	△ 13.1%
用紙使用量	18,028 千枚以下	13,367 枚	△ 25.9%
水道使用量	26.4 万㎡	21.6 万㎡	△ 18.2%

●**温室効果ガス排出量** 節電や燃料などの効率的な使用、業務の合理化など、行財政健全化に向けた取り組みが進められていることで削減につながったと考えられます。

●**用紙使用量** 両面印刷や裏面利用などの取り組みが進み、大きな成果が表れています。

●**水道使用量** 節水の啓発と取り組みにより、使用量が削減されました。

第3期実行計画を策定しました

第2期計画の期間が本年度で終了するため、第1期・第2期計画に沿って、第3期計画を策定しました。

【**計画の目的**】 市自らが循環型社会の構築に積極的に取り組むことで、環境への負荷の低減を図ります。

【**計画の対象**】 市庁舎、教育委員会、水道局、市民病院、競馬組合などの施設。

【**計画の期間**】 平成22年度～26年度（5年間）

【**温室効果ガスの排出量の目標**】 これまでの取り組みも定着したため、平成26年度までは基準年の排出量を上回らないことを目標とします。

※基準年の排出量…平成21年度の温室効果ガスの排出量8,761トンから、取り組みの対象外としている項目※を差し引いた5,841トン。

※取り組みの対象外となるもの ①街路灯（安全対策上必要なもの） ②運動公園の各照明機器（使用者に対して特に不便をかけるもの） ③水道事業と下水道事業の電気使用量（水道の一元化と処理人口の増加に伴い電気使用量の把握が困難であるため、別に削減に関連する目標を定めているもの）

●**今後の取り組み** 実行計画を策定して10年目を迎え、取り組みも定着しています。今後も省資源、省エネルギーを実施し、地球温暖化防止に努めます。また、市民の皆さんや事業所へ情報を提供し、地球温暖化対策の推進を図ります。

※本実行計画書は、市役所 環境保全課・情報公開コーナー、中央公民館で閲覧できます。

☎環境保全課 ☎ 63-1386

荒尾市の路線バスの状況を報告します

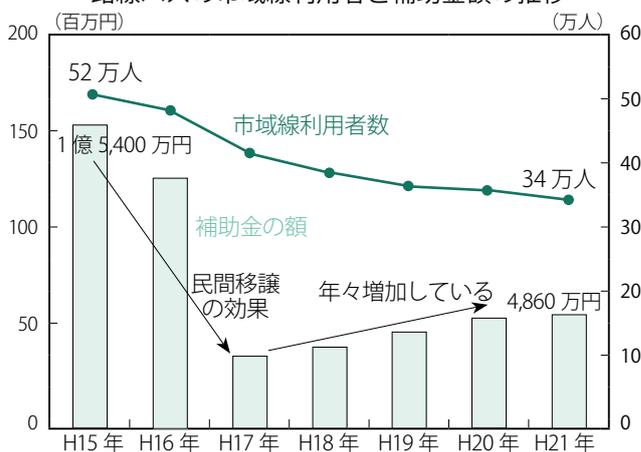
荒尾市では、市内や玉名市、長洲町を結ぶ路線バスの維持のため、バス事業者に対して毎年補助金を交付しています。しかし、右のグラフの通り、年々補助金が増加していて、このままでは、路線廃止や便数減少などの見直しを行う必要が生じます。その結果、バス利用者の利便性が低下し、ますます乗客が離れる悪循環におちいってしまいます。

路線バスは、自動車などの移動手段をもたない人にとって生活に欠かせないものです。また、今後進展する高齢社会や環境問題の視点からも公共交通の大切さは見直されていて、路線バスは私たちの住みよいくらしに密接な関係があるものです。

時にはバスでお出かけし、私たちのまち・荒尾をゆくり見つめてみませんか。

☎政策企画課 ☎ 63-1273

路線バスの市域線利用者と補助金額の推移



「地域公共交通住民意識アンケート」にご協力を!

荒尾市のこれからの地域公共交通（バスやJRなどの交通に関して）のあり方を考えるため、1月下旬から市内に居住する600世帯（無作為抽出）に対して、熊本大学の協力のもと、アンケート調査を実施します。

このアンケートは、荒尾市での通勤・通学・レジャー・買い物・通院などの日常生活での移動手段や目的地、交通に関する意見・要望などをおたずねし、今後の荒尾市での地域公共交通のあり方を考える際の参考にします。調査票の記入に当たっては、調査員が直接ご自宅を訪問します。趣旨をご理解のうえ、ご協力頂きますようお願いいたします。